

カレンダーの日 記念講演

「ロシア・東欧の

民間暦について」

ロシア・東欧の人々が一年の流れをどのように認識していたかを民間暦における主な祝祭とその習俗を紹介しながら見てゆく。西欧と比べるとキリスト教化が遅れたこの地域の民間暦は異教的色彩の強い独特の習俗を残している点に興味深い。

令和4年
12月3日(土)
14:00～

聴講無料

リモート配信にて開催

(講演後『2023年暦予報』を発表。16:00終了予定)

参加・閲覧方法や詳細は暦文協のホームページにて。

ZoomのIDとPASSは11月下旬に公開されます。

<https://www.rekibunkyo.or.jp>

講師紹介

早稲田大学名誉教授

伊東 一郎氏

Ichiro Ito

早稲田大学文学部卒業。国立民族学博物館助手、早稲田大学文学部教授を経て、現在早稲田大学名誉教授。編訳書に『ラフマニノフ歌曲歌詞対訳全集』（新期社）、著書に『マーシャは川を渡れない—文化の中のロシア民謡』（東洋書店）、訳書に『子どもに語るロシアの昔話』（こぐま社）等多数。

12月3日は「カレンダーの日」

明治5年(1872)11月9日、宮中において改暦式が行われ、大勢の役人が参席する中、明治天皇は大臣を従えて便殿に出御し、伊勢神宮を遥拝して祝詞を読んで事の由を告げられました。政府は、明治天皇の詔書と太政官布告を発して『来る12月3日を以て明治6年1月1日とし太陽暦を実施する』と発表。長い間、太陰太陽暦で生活していた国民にとって、突然の改暦は大変大きな衝撃でした。しかしその結果、太陽暦を採用する諸外国と足並みを揃えることになり、日本は文明開化の道を歩み始めました。

この史実に基づき昭和63年(1988)に、全国団扇扇子カレンダー協議会、並びに全国カレンダー出版協同組合連合会によって12月3日は「カレンダーの日」と定められました。

主催



一般社団法人

日本カレンダー暦文化振興協会

Japan Association for Calendars and Culture Promotion

お問合せ 事務局

〒110-0016

東京都台東区台東1-27-11 佐藤第2ビル204号

TEI 03-5816-5066 FAX 03-5816-5036